

	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	・個々の生徒に応じたきめ細やかな支援や指導がなされているか	・課題を抱えた生徒への組織的な支援体制の充実 ・特別指導の充実	・春秋の交通安全運動の実施 ・日常的な生徒指導の充実 ・生徒指導部会の定期開催 ・個々に応じた特別指導計画の作成と実施 ・SSWやSC、教育相談や特別支援教育担当と連携する。	B	課題を抱えた生徒への組織的な支援体制や特別指導については、職員研修等の成果もあり、少しずつではあるが充実し始めている。しかしながら、指導が入りにくい生徒への実質的な対応等現在のスキルでは対応できない場面も多くあり、各所との連携のあり方を含めて課題の方が大きい。
人権教育の推進	研修の充実	全職員の実践力向上	・校外研修（年1回以上）参加、校内研修（学期に1回）実施 ・体罰や暴言等防止	・校外研修日程の周知徹底と推進委員会で企画立案と実施 ・全職員対象コーチング研修実施	B	校外の人権教育研修会に、ほぼ全ての職員が1度は参加し、人権感覚の向上を図ることができた。講演会・校内研修をとおして、教師の指導力向上につながった。
	人権教育の充実	全ての教育活動にわたって人権教育を実施	・人権教育に係る、年間計画の作成	・人権教育推進委員でLHR指導案の原案作成	A	教育活動を見通す中で年間計画を作成し、計画的に人権教育LHR等を実施することにより、人権感覚の向上を図ることができた。
			・人権に係る講演会を年1回実施	・人権教育推進委員会での企画立案と実施	A	年間計画に基づき、講演会（ハンセン病問題、水俣病問題、デートDV防止）を実施することにより、基礎的な知識を得て様々な人権課題に関する理解を深めることができた。
命を大切にす る心を育む指導	自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・いじめアンケートで、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少	・ソーシャルスキルトレーニング（SST）を継続実施 ・命をテーマにした講演会を学期に1回実施 ・毎月の人権標語作成とあいさつ運動の実施	A	SSTの継続的な取組で、自他を尊重し、思いやる言葉や態度が育成できている。共助部局と共助委員が中心となり、その月の行事等に合わせて人権意識の啓発につながる標語を毎月作成した。あいさつ運動も毎月実施することができ、お互いを認め合うきっかけを作ることができた。	
いじめの防止等	いじめの未然防止と適切な対応	・いじめの認知件数とその解決率の向上 ・キッズサインによる情報提供	・いじめ等に関する情報共有の強化 ・生徒会活動等を通して、いじめを生まない雰囲気づくり ・生徒と教師の信頼関係構築と生徒の相談しやすい環境整備 ・いじめが起きた際の適切な対応	・標語やポスターの募集 ・「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育と生徒の人権に配慮した教育実践 ・本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶への取組実践 ・重大事態対応マニュアルの整備	B	本年度は1学期に5件、2学期に3件のいじめを学校として認知した。いずれも初期段階で介入し解決に至っており、認知件数並びにその解決率については、一定の成果を上げていると思われる。しかしながら、キッズサインに寄せられた情報やネット上のトラブル等も含めて、表面化していない「いじめ」やこれに類するトラブルも一部に認められる。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	生徒・保護者・職員による地域連携	防災型コミュニティ・スクールとして地域との連携体制を構築	・地域住民と学校関係者の協力体制を確認 ・避難所運営マニュアルの作成 ・防災をテーマとした探究活動	・学校運営協議会を開催し、具体的な連携体制の確認や避難所運営マニュアルの作成 ・地域と連携した防災避難訓練や防災に関する教育活動の実施	A	学校運営協議会を実施し、八代市との災害発生時における学校施設の避難所等利用に関する基本協定を締結した。また、それに対応する避難所運営マニュアルを作成した。今後も防災型コミュニティ・スクールとして地域と連携しながら、防災教育を充実させていきたい。
	開かれた学校づくりの充実	ものづくりを通じた地域貢献や魅力ある教育実践と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	P T A総会は出席率9割以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	中学生体験入学の実施	A	前年度より増加し450名ほどとなった。各科の特色を中学生に十分に伝えるPRができていた。資格取得や本校の進路状況など就職への関心が高い中学生が多く参加していた。
			教育成果や学校行事の実施状況を年2回中学校等に紹介	教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動（HPの充実と学校便りの送付等）と積極的マスコミの活用 学校情報の広報誌制作やホームページの充実、地域のニーズに対応した製品製作等の取組	B	本校のP T A総会参加率は例年90%以上とかなり高い方であったが、今年度は86.4%とかなり参加者が減った。来年度は開催日やP T A総会の日程について検討する必要がある。
特色ある学校づくり	資格検定等の取得や部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	・朝は課外、放課後は部活動に励むメリハリのある学校生活 ・基礎基本を大切に、凡事徹底の実践	各種コンテスト入賞（3位以内）と部活動各種大会での入賞（目標ベスト8以上） 生徒の意欲高揚	担当者や生徒・保護者との連携(信頼と協力)による指導強化 外部研修含む顧問指導力向上 リーダー研修会を実施し、生徒の自覚と自信を深め、学校の活性化に寄与する人材を育成 資格・大会内容の紹介や合格・入賞結果の報告	B	高校生ものづくりコンテストについては、金賞2部門、銅賞3部門と昨年に比べ受賞者が増加した。九州大会（旋盤作業部門）でも優勝し、全国大会に出場した。溶接競技大会は、2年ぶりに団体優勝した。陸上・水泳・弓道の個人でインターハイ出場、野球部が八代地区1年生大会優勝、卓球男子が九州新人大会出場、弓道部男子が全国選抜大会で第3位等の好成績を残した。
保健安全環境の管理	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識高揚	各学期毎の校内美化週間を実施する	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施	A	計画的に毎学期実施することが出来た。
		教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚	最低学期に1回、職員及び生徒による安全点検を実施	職員及び生徒による危険箇所等の安全点検の実施	B	学期に1回校内安全点検を行い、危険個所の把握および修繕へつなげることができた。
	教職員が率先垂範し、環境に対する責任ある態度	学校版環境ISOに取り組む	省資源、リサイクル徹底、使用電力と水道の細やかな節減、ごみの削減と分別の徹底	B	可燃ごみについては毎日計量を行い、排出ごみの削減につなげることが出来た。電力や水道水の使用量については、啓発活動の不足もありも節減に至らなかった。	
心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健(病気予防対策等)啓発	生徒、保護者、学校の連携徹底と生徒情報共有化、毎月保健だより発行、外部講師講話の実施 衛生委員会月1回開催	B	1学期の検診後の病院受診や治療については、例年よりおおむね向上している。衛生委員会は毎月開催することが出来たが、職員の長時間勤務については、増える傾向にあり、今後も業務見直しや業務改善により減少させる必要がある。	
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の支援計画、指導計画作成、適切な支援を実践	学科、学年と連携しながら全職員共通理解に基づく支援の実施 家庭と学校と専門機関の連携	B	支援計画、指導計画ともに担任作成に切り替え、支援の実際につなげることができた。専門機関と連携したり、巡回相談員の訪問を利用したり、グループ研修へ繋げることで特別支援教育の充実を図ることが出来た。
		発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と実践	科会や学年会からの情報を教育相談部会で共有化 全職員による適切な対応策を徹底研究	生徒理解研修会の実施 SSWやSC等の活用及び専門家による校内職員研修会を実施	B	生徒理解研修会を実施する回数や時期は検討する余地がある。SSWやSCにつなげる支援は十分機能したが、必要とする生徒の支援を全職員で共通理解を図る方法は検討が必要である。

4 学校関係者評価

- 最初に触れたいことは、今年度の貴校への入学志願者が定員を超える人数となったことは、学校長のリーダーシップの下、教職員のみなさんのたゆみない努力のたまものであると思います。少子化の進展により全国的にも私学への進学が37%と全国的にも高い進学率、熊本市内への進学が集中するなかで定員を超える入学志願者数は、技術立国としての日本を支える人材育成に対する期待の大きさでもあると思います。常々、生徒の進路希望に対して地域の中からも、教職員のみなさん方のきめ細やかで積極的な企業への関わり合いを見聞きしております。
- 学校の評価は、生徒受験数を見れば、結果が見える。人口減少の中で、徐々に定員確保出来たのは素晴らしいし、地域の評価の表れ。特に進路説明会の取組は、良かったと思います。生徒、保護者の評価も高く、先生達からも高評価、何より地域（企業）からも高評価が得られ、結果的に大きな対外アピールとなった。
- 部活動（体育系・文化系）共に結果を出した団体、個人も多かった。地域活動も積極的に行われた。
- 年々、自動車での登下校時のマナーの向上が目にとまります。交通安全教育研究推進事業の取り組み効果が表れているものと思います。この研究事業の取組が貴校だけではなく、他校、さらには校種を超えて広がって欲しいと願っています。
- 全ての学校が、少子化の中で、様々な努力を行い生徒確保、学力向上、部活動の充実、就職率（内容）の向上を行っているが、成果は様々。現状の素晴らしい成果で満足する事なく、良い成果が出ている取組でも更に良くなる為に変化を起こしていく事が大切だと思います。就職率100%の中で、更なる質の向上、部活動における目標設定の向上。これまでの八代工業高校では考える事が無かったような計画（目標）を設定し、取組等により、地域の活力に結びついて行くと思います。
- 八代工業高等学校のプライドを持って、生徒に向かって教育を進められていることに対し敬意を表し、学校に勤務する者として参考にさせていただきます。勉強になりました。
- 3年間で就職をする生徒が多いのですが、「夢の実現」度はいかがなものなのかというも聞いてみたかったです。夢を実現するためには努力が必要ですから、学校の勉強や部活動に精を出すことが重要です。勉強については、小中学校の授業は変わりつつあります。「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、めあてから問いをつくり、学習課題にして追求していきます。課題解決していきます。その中で他の人の考えに触れたり、班で考えをまとめたりしていきます。培った表現力で全体へ発表をして、考えを主張し合って練り上げていきます。培った表現力で全体へ発表をして、考えを主張し合って練り上げていきます。毎時間できるものではありませんが、単元を通して身につける力を明確にして指導しようと努力しています。教えるべきものはしっかりと教えるのですが、学びとる、学びに向かうことが大切になってきています。職業系の高校でも主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善に取り組まれていると思いますが、義務制の喫緊の課題を書いてみました。
- 私的な考えですが、「率先垂範」先生方の後ろ姿を生徒はよく見ていると思います。指導したいことは、まず、自分が手本を示すこと。生徒は意気を感じて付いてくることでしょうか。今後も師弟同行である貴校の益々の御発展と生徒さん方の御活躍を祈念いたします。

5 総合評価

- 今年度は生徒募集に向けて、体育祭や文化祭等の学校行事の内容を充実させ中学校や地域への案内を行った。特に体育祭では集団演技の質の向上を図ることができ、地域や卒業生から賞賛の声をいただいた。文化祭ではテクノ広場（ものづくり体験）を実施し、地域の子ども達が楽しんで参加できていた。また、中学生体験入学や子ども科学フェアなどにおいては、工業高校における「ものづくり」の楽しさを県民に広くPRすることができた。また他にも地域のボランティア活動や八代市、青年会議所等と連携した地域貢献活動を行うなど、在校生も体験的な活動を多くすることによりPR活動に取り組んだ。結果として、志願者数の大幅な増加には繋がり、定員を確保することができた。
- 学校目標や重点目標については、重点目標を整理し、理解しやすいものとし、年度当初に教職員へ周知し、合格者説明会、始業式や終業式、PTA総会や各学年PTA等で機会ある毎に周知を行っている。アンケート調査からは生徒87%（昨年度89%）、保護者92%（昨年度93%）と昨年度と比べ、理解度が若干低くなっている。職員はもとより生徒と保護者の理解度を高めるため、年間を通して周知を図っていききたい。
- アンケート調査の学力向上へ取組では、授業が「分かりやすい」と回答した生徒が、90%と昨年度と比べ4ポイント増加している。今後とも生徒一人ひとりの理解度を把握し、授業改善を行うとともに個別指導などの更なる対応策が必要であると考えている。昨年度は生徒の18%が「授業に積極的に取り組んでいない」と回答していたが、今年度は16%と2ポイント減少し、2年連続して意欲の向上が見られる。今後は更なる学習意欲の向上、進路決定率の向上や資格取得数の増加に繋げていきたい。
- 進路指導については、昨年度は37%の生徒が「面談」について十分ではないと回答しているが、今年度は24%となり、5ポイント改善されているものの、まだ3割弱近くの生徒が「十分ではない」と回答しているので、面談を十分に行える環境を整えていききたいと考えている。本年度も企業の採用意欲が旺盛で求人数が増加し、就職選考解禁1回目受験で県内工業高校トップクラスの内定率97%（昨年度93%）を達成するなどし、1月には就職内定100%を達成した。進学では熊本大学1人、大分大学1人、長崎大学1人、熊本県立技術短期大学1人、九州能力開発大学1人の計5人が国公立大学に合格し、昨年度の2人から増加した。今後は、センター試験等にも対応した進学課外の更なる充実が必要である。公務員合格者は3人（福岡県警1人、自衛隊2人）だった。公務員の指導については希望者が少ないものの、生徒の進路実現のためにも公務員課外についても充実していききたい。
- 資格取得については、各科とも熱心に取り組み、ジュニアマイスターの取得者は昨年度から57人増えて160人であった。全国の優良校として学校表彰も受けることができた。
- 校内環境美化については、96%の保護者が「よく整備されている」と回答しており、生徒においても、89%が「環境美化が良い」と感じており、いずれも昨年度より向上している。特に、次年度は教室棟の改築もあり、実習棟での学習活動が多くなるなど、学習環境が大きく変わるので今まで以上に環境美化に努めていきたい。
- 今年度は生徒の活躍が多く見られた。部活動では、陸上部、ソフトテニス部、弓道部が全国大会出場、柔道部、卓球部、水泳部が九州大会に出場するなどの活躍が見られ、次年度の県高校総体での活躍を期待している。高校生ものづくりコンテストでは、4部門（旋盤作業・電気工事・化学分析・家具工芸）で入賞した。旋盤作業・家具工芸部門の生徒は県大会で優勝し、九州大会に出場した。特に、旋盤作業に出場した生徒は九州大会でも優勝し、全国大会出場を果たした。溶接競技大会では九州大会への出場も果たし、4位という結果を残した。県高等学校文化連盟写真専門部春季写真コンテストでは優秀賞を獲得し、九州大会出場を果たした。また、県高校美術展においては美術部の生徒が最優秀賞を獲得し次年度の全国大会出場が決定している。

6 次年度への課題・改善方策

- | | | | |
|-------------|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------|
| ① 確かな学力の向上 | ○ ICT活用授業の充実 | ○ アクティブラーニングの積極的活用 | ○ 各教科の授業研究の更なる充実 |
| ② 資格取得の取り組み | ○ ジュニアマイスター取得増加に向け、各科が連携した指導体制の確立 | ○ 朝課外の内容充実と効率化 | |
| ③ 地域への発信と連携 | ○ 学校案内や広報誌、HPの充実と年間を通した計画的な広報活動 | ○ ものづくりや部活動等を通しての地域貢献 | |
| ④ 進路指導体制の強化 | ○ 就職・進学・公務員の指導体制の強化及び企業との連携 | ○ 進路意識の高揚に向けた各種ガイダンスの工夫改善 | |
| ⑤ 校内組織の充実 | ○ 国公立大学と公務員受験対策並びに組織的指導体制の強化 | ○ 家庭や関係部署との連携強化 | |
| ⑥ 交通安全教育の徹底 | ○ 人権教育推進に向けた指導体制の充実 | ○ 教育相談部(人権・特別支援)の組織内連携強化と関係機関との連携 | |
| | ○ 交通安全意識高揚に向けた講話 | ○ 自転車の交通ルールとマナーの徹底 | ○ 保護者と連携した交通安全教育の充実 |